

彷徨 24

都立西高ワンダーフォーゲル部

山行総覧

1985~1994 (39期~48期)

1985年度 (S. 60)

	分類	期日	目的地	備考
☆	新歓	4/21	奥多摩・鷹ノ巣山	CL内倉、SL中川
☆	5月月例	5/11~12	奥秩父・乾徳山～黒金山	CL内倉、SL中川
☆	6月月例	6/29~30	丹沢・塔ノ岳～蛭ガ岳	CL内倉、SL中川
	夏山合宿			CL内倉、SL中川
☆	春山偵察	8/24~28	南ア・仙丈ヶ岳～早川尾根	CL内倉、SL中川
☆	沢のぼり	9/21~23	笛吹川 釜ノ沢、大久保沢	CL内倉、SL中川
☆	11月月例	11/22~24	上州・白毛門	CL内倉、SL中川
☆	スキー合宿	12/25~30	乗鞍高原温泉スキー場	CL内倉、SL中川
☆	1月月例	1/25~26	南八ツ・編笠山	CL内倉、SL中川
☆	2月月例	2/22~23	水ノ塔山、籠ノ登山	CL内倉、SL中川
☆	春山合宿	3/25~30	南ア・仙丈ヶ岳、アサヨ峰	CL内倉、SL中川

☆印…山行報告あり

1986年度 (S. 61)

分類	期日	目的地	備考
新歓		奥多摩・三頭山	CL高橋、SL坂本
5月月例		奥多摩・雲取山	CL高橋、SL坂本
6月月例	6/25~26	丹沢・表尾根～三ツ峠	CL高橋、SL坂本
夏山合宿	7/20~26	北ア・薬師岳～劔岳	CL高橋、SL坂本
春山偵察	8/21~25	南ア・上河内岳～光岳	CL高橋、SL坂本
沢のぼり	9/13~15	米子沢、割引沢 (巻機山)	CL高橋、SL坂本
11月月例		南八ツ・赤岳～硫黄岳	CL高橋、SL坂本
スキー合宿		日光・鶏頂山	CL高橋、SL坂本
1月月例		北八ツ・天狗岳	CL高橋、SL坂本
2月月例		湯ノ丸～角間山	CL高橋、SL坂本
春山合宿		南ア・上河内岳～光岳	CL高橋、SL坂本

1987年度 (S. 62)

分類	期日	目的地	備考
新歓		奥多摩・大岳山～鋸山	CL栗原、SL水飼
5月月例		奥秩父・乾徳山～黒金山	CL栗原、SL水飼
6月月例		奥多摩・七ツ石山～鷹ノ巣山	CL栗原、SL緒方
夏山合宿	7/25~30	北ア・燕岳～笠ヶ岳	CL栗原、SL緒方
春山偵察	8/23~25	八ツ・茶臼山～赤岳	CL栗原、SL緒方
沢のぼり			CL栗原、SL緒方
11月月例		日光・前白根	CL栗原、SL緒方
スキー合宿			CL栗原、SL緒方
1月月例		南八ツ・編笠山	CL栗原、SL緒方
2月月例		奥秩父・大菩薩嶺	CL栗原、SL緒方
春山合宿	3/31~4/3	八ツ・天狗岳～硫黄岳	CL栗原、SL緒方

1988年度 (S. 63)

分類	期日	目的地	備考
新歓偵察	4/24	奥多摩・川苔山	CL松原、SL内田
新歓	5/1	奥多摩・川苔山	CL松原、SL内田
5月月例	5/21~22	奥多摩・雲取山～鷹ノ巣山	CL松原、SL内田
6月月例	6/25~26	丹沢・表尾根、鍋割山	CL松原、SL内田
☆ 夏山合宿	7/21~27	北ア・薬師岳～劔岳	CL松原、SL内田
個山	8/6~8	北ア・西穂、徳本峠	CL博多、その他
春山偵察	8/20~24	南ア・早川尾根、仙丈ヶ岳	CL松原、SL内田
個山	8/29	谷川岳	CL博多 (単独)
沢登り	9/17~18	丹沢・水無川本谷	CL松原、SL内田
個山	10/8~10	北ア・奥穂～前穂	CL博多、その他
個山	11/3	尾瀬・燧ヶ岳～至仏山	CL博多 (単独)
11月月例	11/19~20	奥秩父・大菩薩嶺	CL松原、SL内田
スキー合宿	12/24~30	志賀高原・熊ノ湯、横手山	CL松原、SL内田
1月月例	1/21~22	南ア・入笠山	CL松原、SL内田
2月月例	2/18~19	日光・男体山	CL松原、SL内田
春山合宿	3/31~4/5	北八ツ・北横岳～硫黄岳	CL松原、SL内田

☆印…山行報告あり

1989年度 (H. 1)

	分類	期日	目的地	備考
	新嶺偵察	4/9	奥多摩・三頭山	CL古川、SL博多
☆	新嶺	5/1	奥多摩・三頭山	CL古川、SL博多
	個山	5/2~5	北ア・蝶ヶ岳、北穂	CL博多 (単独)
☆	5月月例	5/27~28	奥秩父・乾徳山~黒金山	CL古川、SL博多
	6月月例	7/1~2	丹沢・塔ノ岳~三ツ峰	CL古川、
☆	夏山合宿	7/22~28	北ア・常念岳~槍ヶ岳	CL古川、SL博多
	個山	8/9	奥多摩・御岳山~大岳山	CL博多、
	春山偵察	8/23~27	北ア・徳本峠~蝶ヶ岳	CL古川、SL博多
	沢登り	9/9~10	奥秩父・笛吹川東沢、釜ノ沢	CL古川、
	個山	10/18~19	南八ツ・赤岳~編笠山	CL博多 (単独)
	個山	11/3	丹沢主脈縦走	CL博多 (単独)
☆	11月月例	11/18~19	三ツ峠山	CL古川、SL博多
☆	スキー合宿	12/25~30	妙高・池ノ平スキー場	CL古川、SL博多
	個山	1/1	奥多摩・鷹ノ巣山~六ツ石山	CL博多、その他
	個山	1/5	南ア・入笠山	CL博多 (単独)
☆	1月月例	1/13~15	奥秩父・金峰山、瑞牆山	CL古川、SL博多
	個山	1/28	筑波山	CL博多、その他
☆	2月月例	2/10~11	水ノ塔山	CL古川、SL博多
	個山	3/4	奥多摩・棒ノ折山	CL博多、その他
☆	春山合宿	3/25~31	南ア・鳳凰三山~早川尾根	CL古川、SL博多

☆印…山行報告あり

1990年度 (H. 2)

分類	期日	目的地	備考
新歓		奥多摩・川苔山	CL青山、SL松下
5月月例		奥多摩・雲取山	CL青山、SL松下
6月月例		丹沢・塔ノ岳～蛭ガ岳	CL青山、SL松下
夏山合宿		北ア・後立山連峰	CL青山、SL松下
春山偵察		北八ツ・茶臼山～天狗岳	CL青山、SL松下
沢のぼり		奥多摩・水根沢	CL青山、SL松下
11月月例		上越・平標山	CL青山、SL松下
		尾瀬・燧ヶ岳	CL青山、SL松下
スキー合宿		池ノ平スキー場	CL青山、SL松下
1月月例		日光・男体山	CL青山、SL松下
2月月例		四阿山	CL青山、SL松下
春山合宿		北八ツ・天狗岳～硫黄岳	CL青山、SL松下

1991年度 (H. 3)

分類	期日	目的地	備考
新歓偵察	4/5	奥多摩・三頭山	CL江川、SL野村
新歓	4/28	奥多摩・三頭山	CL江川、SL野村
個山	5/26	奥多摩・鷹ノ巣山～六ツ石山	CL江川、SL野村
6月月例Ⅰ	6/8~9	丹沢・塔ノ岳～丹沢山	CL江川、SL野村
6月月例Ⅱ	6/29~30	奥多摩・雲取山	CL江川、SL野村
夏山合宿	7/21~27	北ア・薬師岳～雲ノ平～ ～笠ヶ岳	CL江川、SL野村
春山偵察	8/19~23	南ア・光岳～上河内岳	CL江川、SL野村
沢登り	9/14~15	上越・巻機山、米子沢	CL江川、SL野村、
個山	10/12~13	奥秩父・両神山	
11月月例	11/2~4	南ア・鳳凰三山	CL江川、SL菊池
スキー合宿	12/26~30	アサマ2000パークスキー場	CL江川、SL菊池
2月月例Ⅰ	2/8~9	四阿山	CL江川、SL菊池
2月月例Ⅱ	2/29~3/1	那須・茶臼岳	CL江川、SL菊池
☆ 春山合宿	3/25~31	南ア・光岳	CL江川、SL菊池

☆印…山行報告あり

1992年度 (H. 4)

分類	期日	目的地	備考
新歓	4/26	奥多摩・御前山	CL笹々木、SL菊池
個山	5/4~5	奥秩父・両神山	CL笹々木、SL菊池
5月月例	6/6~7	乾徳山～黒金山	CL笹々木、SL菊池
6月月例	6/27~28	丹沢・丹沢山～檜洞丸	CL笹々木、SL菊池
夏山合宿	7/21~27	北ア・薬師岳～劔岳	CL笹々木、SL菊池
春山偵察	8/18~22	南ア・仙丈ヶ岳～早川尾根	CL笹々木、SL菊池
沢のぼり	9/12~13	奥秩父・笛吹川、東沢	CL笹々木、SL菊池
10月月例	10/10~11	奥秩父・大菩薩嶺	
11月月例	11/21~23	南会津・会津駒ヶ岳	CL笹々木、SL菊池
スキー合宿	12/26~30	上越・黒姫高原スキー場	CL笹々木、SL菊池
1月月例	1/30~31	日光・男体山	CL笹々木、SL菊池
2月月例	2/20~21	日光・平標山	CL笹々木、SL菊池
春山合宿	3/26~31	南ア・鳳凰三山～早川尾根	CL笹々木、SL菊池

1993年度 (H. 5)

分類	期日	目的地	備考
新歓偵察		奥多摩・川苔山	
新歓Ⅰ	4/25	奥多摩・川苔山	CL西原、SL後藤
新歓Ⅱ	5/4~5	奥秩父・西沢溪谷	
5月月例	5/22~23	奥秩父・両神山	CL西原、SL後藤
6月月例	6/26~27	奥多摩・雲取山	CL西原、SL後藤
☆夏山合宿	7/22~27	北ア・後立山連峰	CL西原、SL後藤
春山偵察	8/19~22	南ア・仙丈ヶ岳	CL西原、SL後藤
9月月例	9/11~12	白毛門沢 (沢のぼり) (男)	CL西原、SL後藤
	9/11~12	奥秩父・金峰山 (女)	
10月月例	10/30~31	奥秩父・乾徳山	CL灘吉、SL鈴木
11月月例	11/12~14	北八ツ・天狗岳 (男)	CL後藤、SL尾崎
	11/21	奥武蔵・丸山 (女)	
スキー合宿	12/25~29	池ノ平スキー場	CL西原、SL後藤
1月月例	1/29~30	上越国境・平標山 (男)	CL西原、SL後藤
	2/6	北関東・古賀志山 (女)	
2月月例	2/26~27	奥秩父・瑞牆山 (男)	CL西原、SL後藤
	2/27	奥多摩・高水三山 (女)	
3月月例	3/12~13	奥武蔵・武甲山 (女)	
☆春山合宿	3/26~31	南ア・早川尾根～仙丈ヶ岳 (男)	CL西原、SL後藤

☆印…山行報告あり

1994年度 (H. 6)

分類	期日	目的地	備考
新敏偵察	4/6	奥多摩・三頭山	CL灘吉、SL鈴木
新敏	4/24	奥多摩・三頭山	CL灘吉、SL鈴木
5月月例		奥多摩・七ツ石山～六ツ石山	CL灘吉、SL鈴木
6月月例	6/25～26	丹沢・塔ノ岳～丹沢山	CL灘吉、SL鈴木
☆ 夏山合宿	7/23～29	北ア・薬師岳～槍ヶ岳	CL灘吉、SL鈴木
春山偵察	8/18～21	北八ツ・大河原峠～硫黄岳	CL灘吉、SL上野
沢のぼり	9/14～15	丹沢・勘七ノ沢	CL灘吉、SL鈴木
10月月例	10/15～16	奥秩父・乾徳山	CL栗本、SL名取
11月月例	11/11～13	尾瀬・燧ヶ岳	CL灘吉、SL上野
	11/27	奥多摩・川苔山	
スキー合宿	12/27～31	信越・アサマ2000	CL灘吉、SL上野
1月月例	1/28～29	日光・男体山	CL灘吉、SL上野
2月月例	2/25～26	奥秩父・金峰山	CL灘吉、SL鈴木
☆ 春山合宿	3/25～31	北八ツ・天狗岳～蓼科山	CL灘吉、SL鈴木 SL上野

☆印…山行報告あり

山 行 報 告

1985年度 新嶺・5月・6月・春偵・沢・11月・スキー・1月
2月・春山

1988年度 夏山

1989年度 新嶺・5月・夏山・11月・スキー・1月・2月・春山

1990年度 夏山

1991年度 春山

1993年度 夏山・春山

1994年度 夏山・春山

新入生歓迎山行
奥多摩・鷹ノ巣山

- ・ 85, 4. 21
- ・ CL 内倉、SL 中川
本間、齊藤、鈴木、松原（3年）
中村、新倉（2年）
浜本、高橋（1年）
- OB 吉田氏（34期）、武内氏（36期）、沖田氏（37期）
- 顧問 渡部先生、井田先生、山本先生

<4. 21> 0730立川0744-0855奥多摩0920-0953東日原1000-1240鷹ノ巣山1310-1638峰谷（解散）

5月月例山行
奥秩父・乾徳山～黒金山

- ・ 85, 5. 11～12
- ・ CL 内倉、SL 中川
中村、新倉（2年）
坂本、萩野、浜本、高橋、川島（1年）
- OB 西入氏（35期）
- 顧問 渡部先生、荒井先生

<5. 11> 西高1250-1536塩山1545-1640登山口1650-1900国師平（幕）
就2150

<12> 起0400-発0604-0750乾徳山0810-1040黒金山(L) 1110-
-1155大ダオ1210-1425登山口1510-1545塩山（解散）

6月月例山行

丹沢・塔ノ岳～蛭ガ岳

- 85, 6. 29～30
- CL 内倉、SL 中川
本間、斉藤、鈴木、(3年)
中村、新倉(2年)
坂本、萩野、浜本、高橋、(1年)
- OB 西入氏(35期)、吉田氏(34期)
- 顧問 荒井先生、井田先生

<6.29> 西高1245-1430 渋沢1445-1502 大倉1530-1920 小草平(幕)
就2000

<30> 起0400- 発0601-0720 塔ノ岳0735-0840 丹沢山0900-1130 蛭ガ岳
1145-1617 東野1715-1745 藤野 (解散)

春山偵察山行

南ア・仙丈ヶ岳～早川尾根

- 85, 8. 24～28
- CL 内倉、SL 中川
中村(2年)
高橋(1年)

<8.24～25> 新宿2345-0515 辰野0530-0610 戸台0640-1500 長衛小屋
(幕)

<26> 起0400-発0618-0930仙丈ヶ岳1025-1058馬ノ背ヒュッテ(L)
1130-1410仙水小屋(幕)

<27> 起0200-発0350-0455仙水峠0505-0650甲斐駒ヶ岳0750-
-0943仙水峠(L) 1030-1145栗沢ノ頭1223-1257アサヨ峰1337-
-1502早川尾根小屋(幕)

<28> 起0300-発0515-0900地藏岳1000-1325御座石鉾泉1430-
-1520穴山1557-1620葦崎(解散)

沢登り

奥秩父・笛吹川 釜ノ沢、大久保沢

- 85, 9. 21~23
- CL 内倉、SL 中川
高橋、浜本(1年)
- OB 青谷氏(28期)、加藤氏(35期)

<9.21> 西高1245-1537塩山1545-1700西沢入口1707-1727ヌク沢(幕)
就2100

<22> 起0500-発0605-1253甲武信小屋1316-1330甲武信岳1335-
-1343甲武信小屋1346-1620幕営地 就2130

<23> 起0500-発0640-0959折り返し点1000-1200幕営地1328(L) -
-1346西沢入口1423-1540塩山 (解散)

11月月例山行
上州・白毛門

- 85, 11. 22~24
- CL 内倉、SL 中川
高橋 (1年)
- OB 西入氏 (35期)、荻田氏 (34期)

<11.22 ~23> 上野2243-0216土合0615-1207白毛門1240 (L)-1345
幕営地

<24> 起0400-発0720-0811白毛門0828-1150土合 (解散)

スキー合宿
乗鞍高原温泉スキー場

- 85, 12. 25~30
- CL 内倉、SL 中川
中村、新倉 (2年)
- 坂本、高橋、岩広 (1年)
- OB 荻田氏 (34期)

<12.25 ~26> 新宿2345-0451松本0638-0707新島々-0820高原温泉

- <27.29> スキー
 <28> 雪訓
 <30> 発1115-1225新島々 (解散)

1 月月例山行
 八ヶ岳・編笠山

- 86, 1. 25~26
- CL 内倉、SL 中川
 中村、新倉 (2年)
 坂本、高橋、岩広 (1年)
- OB 西入氏 (35期)

- <1.25> 西高1245-1648小淵沢1658-1708観音平入口1718-1725幕営地

- <26> 起0401-発0700-0828編笠山0837-1058西岳1117-1313観音平
 1348-1519小淵沢 (解散)

2 月月例山行
 水ノ塔山、箆ノ登山

- 86, 2. 22~23
- CL 内倉、SL 中川
 中村、新倉 (2年)
 坂本、高橋 (1年)
- OB 西入氏 (35期)、松本氏 (33期)

<2.22> 西高-上野-小諸-車坂峠-幕営地

<23> 起0330-発0557-0928水ノ塔山0940-1138東麓ノ登山1144-
-1259西麓ノ登山1310-1917地藏峠1925-1958小諸 (解散)

春山合宿

南アルプス・仙丈ヶ岳、アサヨ峰

・86, 3, 25~30

・CL 内倉、SL 中川

中村、新倉(2年)

坂本、高橋、岩広(1年)

OB 西入氏(35期)、相沢氏(37期)、荻田氏(34期)

<3.25~26> 新宿2345-0517伊那北0530-0610戸台0642-1032丹溪山荘
1118-1448長衛小屋(幕) 就2000

<27> 起0330-発0606-0748仙水峠0800-1211栗沢ノ頭1235-
-1245幕営地 就2020

<28> 起0330-発0543-0654アサヨ峰0703-0737幕営地0846-
-1006仙水峠1125-1225長衛小屋(幕)

<29> 起0400-発0640-1127小仙丈ヶ岳1135-仙丈ヶ岳-1328小仙丈ヶ
岳1347-1532長衛小屋(幕)

<30> 起0400-発0627-1037戸台1140-1220伊那北 (解散)

(内倉)

夏山合宿

北アルプス・薬師岳～立山～劔岳

- ・ 88, 7, 21～27
- ・ CL 松原、SL 内田
清野、松居(2年)
古川(1年)
- OB 内倉氏(39期)、中村氏(36期)
- 顧問 小菅先生、佐藤先生、渡部先生

一昨年とほぼ同じコースとなった。当時CLだった高橋先輩によると、2日目と3日目がきついそうだ。今年は梅雨が長引き、前半は雨、雨、雨を覚悟しなくてはならない。しかし我々の山行はやたらと雨につきまといわれることであるよ。

<7.21～22> 上野2102-0452富山0522-0603有峰口0620-0724折立0753
-1348太郎平1413-1433薬師峠(幕) 就各自

有峰口からのバスは満員状態で、我々は荷物料を安くしてもらい代わりに、補充パイプイスに座らされた。バスはカーブの多い林道を猛スピードで走るので、固定されていないパイプイスではひどく乗り心地が悪い。あっという間にバス酔いし、朝食食べた鳥とオレンジジュースに無念の再開を果たす。

地獄の50分から解放され、折立に到着。さっきまでポツポツきていたのだが、なぜか急に晴れ出した。2Pで尾根にで、石畳のような尾根道を太郎平に向かう。途中、今度は松居が気持ち悪くなってリバースした。つきあいのいいやつよ。

今回1年生は古川1人。博多は6月山行で丹沢のバカ尾根に両足の親指の

ツメを奪われ、参加不能となってしまった。古川も体力的にまだ十分とは言えないのでアタックザック背負ってのかるうじての参加となっている。

今年松原の配慮でレストがわりと長い。太郎平では25分とって薬師峠に1430着。薬師岳のでかさにびびりつつ、天気が良いので外でカレーを作る。同期で唯一天気がわかる清野は1人、テントで天気図を書いていた。

<23> 起0230-発0432-0728薬師岳(L) 0830-1234スゴ乗越(幕)
就各自

行程が長いので予定より30分早く起きることにした。うどん食って出発。1Pで薬師平。槍ヶ岳が見える。さらに1Pで薬師岳休憩小屋に着く。予定では避難小屋であと1回レストをとるはずだったが、山頂はすぐそこなので根性で突破した。頂上に着くと思いがけず雲が切れ、立山、劔が姿を現す。感無量。ランチがうまい。1時間いて出発。北薬師までザレ場が続く。少々疲れてきた。ガスも出てくる。レストをはさみ北薬師を下りかけると、下からシルバーパーティーが登ってきたので道を譲る。ところがこれが長い長い。40人ぐらいいる。あいさつもおっくうになる頃ようやくやり過ごし、スゴ乗越に向けて大雪溪のわきを下る。ハイマツのかげに雷鳥の親子がいた。初めて見たが、なるほどうまそうな肉つきをしている。獺師にくわれて数を減らしたというのもうなづける話だ。

高橋先輩の言ったとおり、今日は行程がちょっとキツイ。見通しの悪い道をえんえんと下り、スゴ乗越に着いた。テントを張った直後雨がパラつき出す。スゴ乗越小屋内の戸は引くと重しの力でかってに閉まるようになっており、トイレの設備が良かった。

<24> 起0300-発0500-0657スゴの頭0717-0917越中沢岳(L) 1010-
-1212鳶岳1230-1323五色ヶ原(幕) 就各自

雨がちの天気。今日の行程はアップダウンが激しい。昨日結構下りたがさらに下る。下るということはその分登らなくてはならない。長いレストをとったあと最初の登りに入る。何度も山頂らしきものが見えたが、その度に新たな登りが待ち受け、やっとのことで着いた頂上の直前は両手も使う岩場、という手強いピークだった。「スゴの頭」というよりいばっしの山の名前を

つけるべきだと思う。100m下り、今日一番の登りに取り付く。この越中沢岳を越えると突然なだらかな斜面になるらしい。しかしここからはどうしても堂々たる1つの山に見える。地図がうそをつくはずがなく、はたして頂上に来てみるとゴツゴツしたなだらかなスロープがそこにあった。少しスピードをあげてダダダッと下る。最後に「『ウエー、こんなに登るのかよ』と言う登りがある」と言われていた鷲岳を疲れをおして越え、五色ヶ原に入った。

テン場に水場はつくってあったが天然の流れがいいということで雪溪から流れ出る沢のほとりに幕営。沢の水の冷たさはハンパじゃない。流れているから凍らずにすんだいるんじゃないだろうか。事実、水ポにくんだとたん水は一瞬で凍ってしまった、ってそんなはずはないか。

<25> 起0300-発0500-0712獅子岳0735-1012一の越小屋(L) 1051-
-1221雷鳥平(幕) 就各自

あいかわらず梅雨は明けず、おととしより長引く様子。しかしまとまった雨はないので助かる。出発前内倉先輩に「ザラ峠まで行ければ上出来だな」と言われていたが、そこを通りすぎさらに50mほど登るところまで行けた。ここを登りきればあとはなんとかなるという。獅子岳はあと300m。今のところ1Pで200m強のペースなのでこれは途中でレストをとるな、と思っていたらなんと一気に来てしまった。こいつは驚き。チョコレートがうまい。こういう所に来ると不思議に雲が切れる。南には遠く薬師岳が見え、北には雄山がすぐそこに見える。日が射してきた。次のレストでかき氷を食べる。これまたうまい。200m登り、下りると一の越だ。

山の天気は確かに変わりやすい。一の越山荘前では雨の中のランチ。透明ビニール雨具を身につけたカラフルな小学生遠足隊に多少ショックを覚えながら。すみの方でボソボソとクッキーを食べた。

ここから雷鳥平までは観光客用によく整備されており歩き易かったのだが、周りを見れば子供連れの家族、小学生の大集団、こぎれいなスキーヤーなど我身のみすぼらしさを痛感させる人達ばかりで肩身がせまい。早足に通る過ぎ雷鳥平へ。

<26> 起0200-発0340-0456別山乗越0515-0633一服劔0650-0753前劔
0810-0954劔岳(L) 1110-1628雷鳥平(暮) 就各自

いよいよ最終目的の劔へアタック。ポールの立つ雪渓を登る。尾根道に入り、皆朝日を見たいというので急ぐ。エアリアのコースタイムで2時間のところをその半分で別山乗越に着いた。朝日はもう上がっている。しかしきれい。梅雨は明けたようだ。別山乗越の向こう側は大きなカールになっており、そこをトラバース気味に進む。左手の視界が開けると断崖絶壁、遠くに見える普通の山がえらく低い。右を見ればすぐ下の、カールの中心部に小屋が見える。何度か小さなアップダウンを繰り返して、一服劔というユニークな山でレスト。大きな岩山を見上げる。ほおーこいつが劔岳かあ、と思って地図を見たら前劔だった。しかしでかい。しかも米つぶほどの登山者はほとんど垂直に登っているみたいに見える。本物はもっとでかいのだろうか。このスケールの大きさにはさすがにビビる。

気を取り戻して出発。足場が悪いうえにかなりの急勾配なので、危険と体力に配慮して一步一步ゆっくり、慎重に足を運ぶようにした。地道に登って着いた頂上からは劔岳の勇姿が目の前に。少々ガスがかかっている。そろそろ午後になる頃で雷が心配だ。カニの横ばいはなかなかスリルがあった。中村先輩はカメラを回転させたりしてなかなか凝った撮影をしているようだ。しかし古川が危なっかしいので渡部先生が目を三角にしてつきっきりで指導していた。後で聞くと、あの時は教師生命の危機をマジで感じたらしい。縦ばいを通過中下の方で落石の音がしてヒヤリとしたが、影響はなく、そのすぐ後頂上に着いた。多少ガスが出ており、展望はあまりない。しかしここまで歩き通せた満足感はひとしお。ラジウスで紅茶を沸かしてランチ。記念に適当な小石を拾い雨ブタにいれる。長めに休んだ。

別山乗越でパフォーマンスを撮る。先生方のパフォーマンスは佐藤先生が小菅先生の足を持ち人間トレーラーをやらせ、そこで渡部先生が石で小菅先生の頭を殴る、という内容。なんともはや…。(内田)

新入生歓迎山行
奥多摩・三頭山

- ・ 89, 4, 23
- ・ CL 古川、SL博多
内田、清野、松居、松原（3年）
青山、阿部、岩下、松下（1年）
- OG 笠原氏
- 顧問 荒井先生、佐藤先生、渡部先生

割とコースに変化があり、特にフィニッシュのドラム缶橋など、1年生に楽しんでもらえるのではないかと、ということで三頭山を選んだ。しかし、当日は雨男某氏のためか、昼過ぎからドシャぶりの雨。そのため、三頭山からの下りの長さ、雨での急登を考慮し、三頭山から、鞆口峠経由で数馬に下山した。コースとしては、つまらないものとなったが、新緑が目にしみた。

<4.23> 立川0629－武蔵五日市0702－数馬0813－1102避難小屋1331－
－1345三頭山－1545数馬－1715武蔵五日市（解散）

立川駅にCLが遅刻したが予定通り出発。今にも泣き出しそうな空模様の中、歩き出す。しばらくすると降り出す。ピッチを早め、あまり濡れる前に小屋に到着。小屋では恒例のカレーパーティー。マンネリの嫌いもあるが、やはり山のメニューの王様はおいしい。バンバン食べてもらったら、ドシャ降りになった雨なんぞ、なんのその。しかし何も見えない山頂では、ピースの笑顔もイマイチ。雨に濡れた道を滑り下りると、程なく数馬に着いた。

5月月例山行
奥秩父・乾徳山～黒金山

・89, 5. 27~28

・CL 古川、SL 博多

清野、松原(3年)

青山、岩田、松下(1年)

OB 内倉氏(39期)

顧問 渡部先生

9

出発する日は中間テスト最終日。このため、現役生にとって初日は辛いものとなった。しかし2日間とも好天に恵まれ、新歓の天気が悪かっただけに、1年生にとって本格的な登山の導入として、まずまずの山行となった。

<5.27> 西高1250-塩山1552-1632徳和-1940国師ヶ原(幕)

徳和から川沿いに車道を20分程進むと、登山口に着く。しばらくすると陽も沈み、悲壮感が漂う中、苦しみ抜いた末、国師ヶ原に着く。食事もそこに、疲労回復のために、シュラフに進入。

<28> 起0400-発0533-0800乾徳山0815-1045黒金山1130-1457徳和-1534塩山 (解散)

今日も空はスカイブルー。ザレた急坂をしばらく登ると、岩場が出てくる。1年生に足場、ホールドを指示する方が緊張するが、鎖場を2ヶ所やり過ごすと、そこはすぐ山頂。360度展望はバッチリ。金峰山の五丈岩がピョッコリ突き出していて、目につく。黒金山へは、樹林帯のガラガラした登りが続く。1年生がバテ始める頃、コールが登場。「西高~~、ファイト、ファイト……」一巡すると、丁度分岐に到着。ピークに登って、エサを食べ、パワー回復したら、あとは下るだけ。しかしここからが核心であった。目印もまばらなヤブ漕ぎ道。やっと沢にでると、林道も間近。アスファルトの道に足の裏が疲れる頃、徳和に帰着した。

夏山合宿

北アルプス・常念岳～槍ヶ岳

- ・ 89, 7. 22～27
- ・ CL 古川、SL 博多
青山、松下（1年）
- OB 内倉氏（39期）、高橋氏（40期）
- 顧問 荒井先生、佐藤先生、渡辺先生

<7. 22～23> 新宿2333-0445穂高0532-一ノ沢0632-1255常念小屋
(幕) 1352-1502常念岳1515-1550幕营地 就1900

山へ行く人数に比べ、随分と盛大な見送りの中、集中豪雨による影響で少し遅れて、電車が動き出す。この瞬間はいつも、これから山へ行くんだ、と気合が入る。しかし、気合が入りすぎたのか、ねむれないまま穂高駅に到着。それでも、さあこれから北アの三大急登の一つ合戦尾根だ、とバス停に向かう。しかしそこで待っていたのは、昨日の雨による土砂崩れで中房温泉には入れない、とのこと。仕方なく、常念岳から大天井岳のコースに変更。一ノ沢までタクシーで入り、体操で体をほぐしたら、いざゆかん。いよいよ合宿の始まりだ。2Pほど歩くと、雪溪が現れる。白い雪溪、黒い岩肌、青い空、緑の木々。夏山気分最高潮だ。しかし、そろそろお疲れ者が出始める。それでも頑張らせ、ジグザグの胸突き八丁を登り切ると、パッと稜線に出た。ヤッター、テン場だ！しばし休憩したら、常念アタックへ。続く急登に、もうヤダ、と思う頃やっと頂上に到着。辺りはすでにガス一面で、カミナリにおびえながら、テントに走り下りた。

<24> 起0230-発0437-0834大天井岳(L) 0915-1400西岳(幕) 就1830

今日も快晴。暑くなりそう。横通岳まで朝イチパワーで登りきると、あとは大天井岳まで高速道路。大天荘にザックを置き、ランチ片手に着いた山頂からは360度のパノラマ。富士山まで、見える山は全て見える。槍の遠さに、気合を新たにし、西岳へ。しかし予想外の長さで、眠くなるような道

に、赤岩岳を越す頃には皆バテ気味。おまけにテン場に着き、ザックを置いた瞬間、冷たいものがドドッと降り始めた。

<25> 起0200-発0358-0834殺生ヒュッテ-1006槍ヶ岳-1715横尾
(幕) 就1900

念願の槍に登る日は、星空で明けた。月に照らしだされた東鎌、スッと立つ槍が別世界のよう。ハシゴや鎖を使い、急降下して水俣乗越に降り立った頃には朝になっていた。今度は高度差600mを一気に登る。途中ブロッケン現象に遭遇。歩くとついてくる怪しいヤツ。しかしここで、争ってきた戸山高校の山岳部に抜かれる。ヤツラはザックも小さく、人数も多い。オレラの方が強いんだ、と心に言い聞かせ、グッとマイペース。殺生ヒュッテからは槍をアタック。山頂はまたしてもガスの中だが、登れただけで満足。槍沢の下りは、スキー場のよう。雪に滑って転んで喜んでいるうちはよかったが、横尾まではモウヤメテ、という程長く、着いたときには皆バテバテであった。

<26> 起0400-発0526-0834溜沢(L) 1000-1053ザイデン取付-
-1322横尾(幕) 就1900

今日は奥穂アタック。しかし怪しい空模様。のしかかってくるような屏風岩の裾をまわりこむと、カール地形の溜沢に着く。まわりをグルッと岩山に囲まれ、素晴らしいところだ。しかしここで台風接近中、という情報を耳にし、奥穂は断念。それでもザイデングラードの取付まででもいこう、ということになる。合宿始まって以来、初めてのんびりするが、たまにはこういうのもいい。ザイデン取付からは谷を隔てて常念岳が見え、3日前と逆の立場となる。午後は差し入れパーティーで時間をつぶし、合宿最後の夜はタノシミ。

<27> 起0300-発0443-0722上高地 (解散)

最終日は上高地まで高速道路を3P。自然とペースはあがるが、ここで1年生がバテたのはいただけない。明神を過ぎると、サンダラー(サングルを抜いた人)やハイヒラー(ハイヒルを抜いた人)が増え始める。着いた上高地では、黒い顔と怪

しいにおい到场違いの感をうけるが合宿は終わったのだ！現役は小梨平で一泊し、上高地を散策して遊んでから帰途についた。

11月月例山行

御坂山塊・三ツ峠山

- ・89, 11, 18~19
- ・CL 古川、SL 博多
青山、岩田、松下、島野（1年）
- OB 内倉氏（39期）
- 顧問 佐藤先生

公式山行が初めての1年生がいることから、展望がよくて、ごく楽な山、ということで検討し、過去資料がないことも魅力的で、三ツ峠山に決定した。しかし冬山への導入としてまだ雪もついていなく、またボッカ山行として、物足りないものとなった。展望がよいだけに、5月月例・個山などで行くとよいかもしれない。

<18> 西高1310-大月1345-みつとうげ駅1625-1755ダルマ石（幕）

みつとうげ駅からは前方に山頂を見ながら歩き出す。秋の夕暮れは早く、1P歩くと辺りは真っ暗になり、ヘッドランプ装着。炭鉱夫部隊に変身だ。ダルマ石とは、変な怪しいデッカイ石で、そこには柱だけしか残っていないこれまた怪しい茶屋が建っていたりする。寝る前に人工衛星を見つけ、はしゃぐ。

<19> 起0400-発0555-0930三ツ峠山1010-1325河口湖駅（解散）

朝、大きめの石をザックに詰め込み、出発。しかし10分もしないうちに、岩田がキスリングのショルダーベルトの付け根をぶっちぎる。ここで登場したのは佐藤先生の妙技。あっという間になんなく修理。ジグザグの急登を2

P歩くと、岩トレゲレンデに出る。デカイザックの自分達は場違いのよう。山頂へは肩から一登り。風が強く、意外と寒い。ハツは雲の中だが、南ア、裾野をいっぱいのにぼした富士山が雄大に見えている。肩に戻り気持ちよい木無山の草原を過ぎると、あとは河口湖駅を目指して一気。

9

スキー合宿
妙高・池ノ平

- ・ 89, 12. 25~30
- ・ CL 古川、SL 博多
青山、岩田、松下（1年）
- OB 高橋氏（40期）

今年はスキーを最も優先して考えてしまったので、雪訓が大分いいかげんなものになってしまった。やはり雪訓という目的があるのだから、それがきちんと出来るスキー場を選ぶべきだ。

また、今年も雪が少なめであり、出発直前まで頭を悩ました。さらに「割と大きく、すいている」というワガママな希望があり悩み抜いたが、池ノ平に決定した。赤倉と杉ノ原というビッグ&人気スキー場には含まれているせいか、すいている、という点ではまずまず（最高15分位のリフト待ち）だったが、多少コースの数が少なく単調で、後半少し飽きがきた。

スキーの方は、経験のある者が初心者に教え、皆それなりに上達した模様。それにしても、噂の某氏の蛍光イエローのヤッケは、評判通り発色がよかった。

1月月例山行
奥秩父・瑞牆山、金峰山

- ・ 90, 1. 14~15

・CL 古川、SL 博多

青山、岩田、松下（1年）

OB 齊藤氏（38期）、高橋氏（40期）

冬山入門の山として、また前から気になっていた山でもあり、これまた運よく、連休があったのでそれを利用して行くことにした。幸い2日間とも天気がよく、冬山の醍醐味を味わうことができた。

<14> 新宿0001-0414 葦崎-0529 瑞牆山荘-0642 富士見平（幕）0822-
-1007 瑞牆山(L) -1233 幕営地

お馴染みの0001を利用。葦崎からはマイクロバスを使い、瑞牆山荘まで行程を稼ぐ。夜明け前の雪のない道を富士見平へ。テントを張っていると、夜が明けてきた。雪山がモルゲンロートに輝くのは特上の美しさ。天鳥川の横断は凍っていて、スリル満点。ここからは急登続きで休む場所もなく、「いってしまえ！」結局テン場から1Pで頂上に。雲一つなく、最高の気分。午後はお昼寝。

<15> 起0500-発0647-1022 金峰山1131-1232 大日岩-1350 幕営地1500
-1527 瑞牆山荘-葦崎（解散）

今日は金峰山へ。千代ノ吹き上げ付近で森林限界を越え、頂上への稜線が開ける。クラストした斜面をサクサク登っていく。“稜線散歩”などというカッコいい言葉が頭に浮かぶ。意外に早く着いた頂上は風が強くて寒く、テルモスの紅茶が体にしみわたるようで美味しい。しかし展望抜群で「余は満足じゃ」。帰りには大日岩を登って遊び、楽しい山行であった。

2月月例山行

浅間山系・水ノ塔山

・90, 2. 10~11

・CL 古川、SL 博多

青山、岩田、松下（1年）

OB 高橋氏（40期）

「先輩～、もうダメです！」「ウオ～～、吹き飛ばされる～！」「オレ、パンツまでビショビショ。」「お前、雨具持って来ないからだよ。」「姉貴が持ってっちゃったんですよ。」「それより、もう限界チック。」「これ以上進むと危険だな。」「CLどうする？」「雪崩の危険もあるし、撤退してもいいよ。」「ウ～ン、撤退！」（ヤッタネ！）「水ノ塔までどの位あるんですかね？」「あとちょっとだと思おうよ。」「登りたいけどな～。」「この天気じゃ、しょうがないよ。」「さあ、帰るべし。」

2月山行、撤退劇のシーン。当日の日本列島は2つ玉低気圧に襲われ、春一番が吹き荒れる、最悪の天気。横殴りの雨・強風に身の危険を感じ、敗退した。引き返すのは賢明だったと思うが、それ以前に天候悪化が予想されただけに、日程をずらすべきであった。春山の早川尾根のラッセルの厳しさを考え、雪の多いこの山域を選んだのだが、ほとんど練習にならず、残念であった。

<10> 西高1300-1416上野-1753小諸-1855車坂峠（幕）

この山域はチト遠すぎる。小諸に着いた頃には真っ暗だった。車坂峠ではスキー場の駐車場の脇の林にテントを張る。ロッジに泊まる連中の視線を感じることもないが、気にしない。明日はヤバそう。

<11> 起0420-発0626-0820水ノ塔山直下（撤退決定）-1034高峰
スキー場-1121小諸（解散）

歩き出してしばらくしてワカンをつけていると、なんと雨が降り出す。しかし進む。道は高峰スキー場を横切り、高峰温泉から登山道に入る。といっても人が入った形跡はなく、モモから腰のラッセル。水ノ塔の登りに入ると少し楽になるが、天気は悪くなる一方。撤退決定したあとは、いやにペースが速い。スキー場脇で、にげるようにバスに乗り込んだ。バスからは、雨の中渋滞しながらもスキー場へ向かうご苦労な人々が見えた。

☆この時期、春一番には要注意。また雨具も忘れないように。

春山合宿

南アルプス・夜叉神峠～鳳凰三山～早川尾根

- ・ 90, 3. 26～31
- ・ CL 古川、SL 博多
青山、松下（1年）
- OB 額賀氏（37期）、高橋氏（40期）

春山の目的地決定の経緯については別に述べるとして、全体的な力不足から、OBに多大な力を貸して頂いたが、そのおかげで、年度を締めくくりに最高の合宿がおこなえた。ちなみに早川尾根走破は約10年ぶりとのこと。

<26> 新宿0001-0302甲府0525-0813夜叉神-1435葎平手前（幕）

甲府駅で浮浪者と共に床にころがって仮眠をとり、いざ夜叉神峠へ。合宿はトイレの脇から始まった。峠でパッと視界が広がる。真っ青な空の下、切り抜いたように真っ白な鳳凰三山が連なっている。これがあるから山はやめられない。再び樹林帯に入り、ダラダラ登っていくと枝立峠。途中、凍った道に足を滑らせて頭を打つヤツがいて、アイゼンをつける。展望のない単調な登りに疲れる頃、山火事跡に出る。予定より大分進んだことからここより少し先の、葎平手前の景色のいい所に今日の寝床をつくる。日本第一位と二位の景色が一望でき、生きている喜びを感じるテン場だった。

<27> 起0400-発0633-1020薬師岳(L) 1100-1210観音岳-1315赤抜沢ノ頭（幕）

今日もピーカン。南御室小屋の裏から急登が始まる。木々の向こうに頂上付近の岩峰が見えるが、なかなか近づかない。やっと着いた山頂は岩がニョ

キニョキ立ち、アルペンムード。仙丈、甲斐駒が姿を見せるが、なんといっても、これからの行程が前方に長大にのびている。気合を新たに観音岳へ。1Pで着いた観音岳は今合宿中の最高峰。ここからはさっき隠れていた北アが見える。北から南まで全部見え、大キレットもそれと分かる。いったん下って登り返した赤抜沢ノ頭をテン場に決定。本日は昨日よりもさらに生きている喜びを感じる、四方遮るものがない、すこぶる眺めがよい場所だった。

<28> 起0400-発0628-0744高嶺0807-0920白鳳峠0950-1035赤薙沢ノ頭(L) 1121-1202広河原峠-1400早川尾根小屋(幕)

天候悪化の気配あり。しょっぱなから急斜面の下り。所々雪庇が張り出している。邪魔な木々を避けながら下りきると、今度は高嶺への急な登り。アイゼンをきかせて一気。ここからはトレースもなくこの山域を独り占めしているようで気分がいい。正面の北岳が大きい。白鳳峠を過ぎるとラッセルが始まる。でもまだヒザ程度でヨユウ。広河原でついに雪が降りだし、最後、先に行った先輩氏のルーファイミスで時折胸まではまるが、難なく早川尾根小屋にたどり着く。掘り起こしたら、今夜は楽しい小屋泊まり。

<29> 起0400-発0700-1050幕営地(L) 1210-1303ミヨシ稜線直下1352-幕営地

朝起きると、雨！ここまで予定より一日分こなしてあるので、停滞だ、という話が出るが、行ける所まで行くことにする。夜の間は大分降ってくれたようで、なかなかやりがいのあるアルバイト。腰から胸のラッセルではなかなか進まず、トップを次々交代。樹林が切れしばらく行くと、格好のテン場を発見。稜線に出ても風が強く、ここを今夜のお宿に決定。テントを張った跡があり、ブロックを拝借。明日を考え、ミヨシの稜線までラッセルに行く。赤旗を立て、オバケのように発達した雪庇に感心したら、テントに帰って、大乾かし大会。ラッセル地帯も抜け、コースも半分を過ぎ、明日はいよいよハイライト。

<30> 起0400-発0642-0856ミヨシ-1004アサヨ峰1050-1230栗沢山
1306-1540仙水峠(幕) (雪訓)

雪は止み天気は回復に向かいそう。1P歩いたところで雲がきれ、太陽が顔を出した。と、地蔵のオベリスクを中心として、歩いてきたコースが現れた。「オオー。」「ヤッタネ。」思わず歓声があがる。雪庇を乗り越し、風の強い稜線を進むと、ミヨシは知らない間に通り過ぎる。アイゼンをきまませて急斜面を登り切るとアサヨの岩の頂上に着いた。頂上を踏んだこの瞬間は一生忘れないだろう。辺りは北岳、仙丈、甲斐駒の超D級にかこまれ、これ以上ないリッチな気分。ちょっとした岩稜帯を下ると、広々と尾根が栗沢山にかけて広がる。風も止み、昨日とはうって変わって春山気分ノンビリつかる。最後のピークで見納めをするが、後ろ髪を引かれる思いがしたのは皆おなじだったと思う。モナカ雪に苦しみ相次ぐ転倒でポロポロになって仙水峠に着くと、とどめに雪訓が加わった。オニバテで怪我をする奴もでたが、終わると辺りはすでに世の帳がおりにて、さらに石油漏れのためにシュラフカバー1枚で一夜を過ごすツワモノがいた。

<31> 起0556-発0800-0849長衛小屋-1113丹溪山荘-1517戸台-
-1437秦野 (解散)

長かった合宿も今日でおしまい。のしかかってくるような摩利志天ともGO OD-BY。腐った雪に時折ズボットはまりながら北沢峠へ歩いていく。ここでついに番がない、と思われたT氏のスキーが登場。それも数百メートルであったが、ポッカにならずに済んだようだ。北沢峠からは足任せにガンガン下り、「あっ」という間に丹溪山荘に到着。ここで白いモノともオサラバ。しかしここからが核心だった。その長いこと、長いこと。途中ルーフェイスして左手の尾根に登ってしまう。気付いたときにはすでに遅く、道は遙か下の戸台川についているのが見えていたのであった。おまけに雨まで降り出す。荒涼とした道を、頭の中を真っ白にして飛ばすが雨は強くなる一方。雨男某氏はまた株をあげたのだった。やっと戸台に着くが、何の感動もないまま、待っていたタクシーにそそくさとのりこむ。しかし秦野へバクソウする途中、改めて一日一日回想するうち、全コースを歩き通せた喜びが湧いてき

た。

☆山に対する考え方が変わったのが、この春山。そして3年間で一番印象に残った山行は？と聞かれたら、迷わず挙げるのがこの春山だろう。力不足から、楽だと思ったときなど一瞬としてなく、苦しい毎日だった。しかし、さまざまなことを教えられ、学んだ。物事をやり遂げることの大切さ、苦勞すれば必ず何かは得られるということ、そして山のすばらしさを一瞬でも垣間見ることができるまで引っ張ってくれたOBに心から感謝したい。けれどもこれは皆、上級生として自分達が下級生に教えるべきことであった。

楽しい山行（根底では楽しくなければならぬと思うが）も確かにいい。だが完全燃焼出来、充実感のある山行もいいものだ。（博多）

夏山合宿

後立山連峰・白馬岳～爺ヶ岳

・90, 7. 22～28

・CL 松下、SL 島野

博多（3年）

江川（1年）

OB 緒方氏（41期）、清野（42期）

顧問 佐藤先生

<7. 22～23> 新宿2350-0515白馬-猿倉0617-0855大雪溪-1433白馬岳
キャンプ場（幕）

1年生は、早くから夜行列車の席とりのために駅に並ぶ。OBの盛大な見送りの中、出発。列車が動き出す瞬間はいつも「これから山へ行くんだ」、と気合が入る。席には座れたものの、夜行のためほとんど眠れないまま白馬駅につく。猿倉で軽アイゼンを借り、体操をしたら、いよいよ出発。今日の行程は、大雪溪をつめ、一気に1600m駆け上がるというハードなものだ。しかし、登高欲もかきたてられる。雪溪に出ると一気に視界が広がり、山の緑と岩の黒と雪の白のコントラストが美しい。アイゼンを付け、快適に登って

いく。風がほてる体に気持ちよい。左に杓子岳が見え、高山植物が咲き乱れるお花畑を過ぎると、テン場に着く。夕食後、劔岳方面を見にちょっと登る。夕景の感動を胸に、ハードだった1日は暮れていった。

<24> 起0400-発0423-0456白馬岳-幕营地0538-0856杓子岳-
-1125天狗山荘(幕)

朝食前に白馬岳往復へ出掛ける。多少雲があるが、天気は上々。緩やかな道を登っていくと、一息で頂上。日の出は見られなかったが、これからの行程は全て見渡せた。その長さを実感すると共に、新たな闘志がわきあがってくる。テン場に戻り、朝飯を食べて出発。左右に高山植物、右に劔岳、前方に杓子岳を見ながら、快適に進む。杓子岳を往復し、鍵ヶ岳を巻いて下っていくと天狗平に着く。

<25> 起0415-発0615-0846不帰ノ嶮-1240唐松岳-1303幕营地

夜半吹いていたすごい風は止んだものの、天気はよくない。今日は合宿最初の難関、不帰ノ嶮をこえる。鎖、ハシゴを頼りに進む、スリルのある岩稜帯のコースだ。1P歩くと、天狗の大下りが始まる。300mも降下する。下りきった所から今度は不帰ノ嶮が始まる。ガスがかかり、下が見えなくて怖くない。知らない間に不帰ノ嶮も通過し、唐松岳の山頂に到着する。雨が降り出し、慌てて小屋に飛び込む。

<26> 起0300-発0928-1258白岳-1310五竜山荘(幕)

朝起きると、すごい風雨。テントは撤収して、小屋でしばらく様子を見る。雨が少し弱まったのを見はからって出発。ぬれた岩場を慎重に進む。さらに下ると、いきなり樹林帯に突入。そしてあっという間に白岳に着く。夕方晴れてきて、もう一度みなで白岳に登り直す。

<27> 起0200-発0330-0444五竜岳-0921キレット小屋-1253鹿島槍
南峰-1438冷池キャンプ場(幕)

今日は2時起床。満天の星空のもと、ヘッドライトをつけて出発。岩場を慎重かつ急いで登る。ギリギリ日の出に間にあった。4Pほどのアップダウンを越えてキレット小屋に着く。鹿島槍がすぐ頭上に聳え立つ。合宿第二の難関、八峰キレットを越えて行く。急登を登り切ると吊り尾根に出た。まずは北峰を往復し、それから南峰を目指す。石のゴロゴロした道にいいかげん疲れてくるころ、冷池キャンプ場に着く。

0 <28> 起0400-発0540-0721爺ヶ岳-1045扇沢 (解散)

2 今日も快晴の中出発。昨日のシルエットの劔岳と違い、朝の劔岳も美しい。鹿島槍を後ろに眺めながら、爺ヶ岳を目指す。山頂からは遠く槍ヶ岳、穂高、さらには乗鞍まで見える。最後の景色を見納めたら、いよいよ下山。下るにつれて暑くなり、バスターミナルの音が聞こえてくる。と、急に林道に飛び出し、夏山合宿はあっけない幕切れとなった。(博多、山んぼより)

春山合宿
南アルプス・光岳

- ・92, 3. 25~31
- ・CL 江川、SL 菊池(1年)
木村、佐々木、土田(1年)
- OB 緒方氏(41期)、栗原氏(41期)、博多氏(43期)

南アルプス南部は非常に交通の便が悪い。しかし、だからこそいまだに多くの自然が残されている。結局は天候に恵まれず、予定をこなすことができなかったが、一年生ながらSLを任された菊池をはじめ皆が南アの自然を満喫できただろう。

<3.25~26> 東京2340-0232静岡0607-0738井川0745-0830畑薙ゲート
0850-0919大吊橋0930-1000ヤレヤレ峠-1105ウソッコ
小屋(L) 1146-1417横窪沢小屋(幕) 就1845

東京を出発すると、眠る間もなく静岡に到着した。駅構内でしばらく仮眠をとりタクシーで畑薙へ。途中で博多氏と合流。あいにくの雨である。だが順調に進み、危険な横窪沢手前でアイゼンをつけ、間もなく小屋へ。今晚は小屋内に泊まることにした。

<27> 起0400-発0603-1201茶臼小屋上(L) 1258-1347茶臼岳1406-
-1430仁田池(幕) 就2030

あいにくの雲空の下、5Pで茶臼小屋付近へ来た。雪崩の危険もあるのでアイゼンをはき、慎重に高巻いて小屋を越え、茶臼岳へ。仁田池に着くころには雪が降りはじめ急いでテントを張る。風が強いので壁を作ることにした。ルート選びの難しさから思ったより時間のかかった一日であった。

<28> 起0330-発0624-0651希望峰-1000テント場(幕・L)1214-
-1238易老岳-1449テント場 就1900

朝起きてみると、天気は回復していた。サクサクの稜線上をアイゼンをはいて出発。しかし4Pほど行くと濃い霧が出てきた。ただでさえわかりにくいルートが、さらに見つけにくくなり、易老岳の手前であきらめて幕営する。その後、元気な有志により光岳方面のルートの確認のためアタックすることに決定。易老岳にはすぐに到着したが、そこから先はまだまだ遠そうだ。翌朝が晴れることを祈る。

<29> 起0400-発0651-1016希望峰(L) 1101-1131仁田池1139-1216
茶臼岳1220-1303茶臼小屋(幕) 就2030

吹雪である。今後の行程を再検討することになった。残念ながら光岳アタックは危険と判断。停滞しても天気の回復は望めそうになく引き返すことに決定。残念だ。吹雪の中、慎重に歩き、茶臼小屋内にテントを広げた。

<30> 起0330-発0556-0903横窪小屋(L) 1004-1059ウソッコ小屋
就2100

やはり今日も雪。自然を前にして人間は全く無力である。目的を達せぬままに下山。しかし各自疲労もたまっており気はぬけない。横窪で止まってもよかったが、翌日のためと考えてウソッコ小屋まで下りる。このころになってようやく晴れてきた。ウソッコ小屋で最後の夜を楽しもう。

<31> 起0400-発0549-0633ヤレヤレ峠0646-0705大吊橋0517-
-0803畑雞ダム0817-0907ロッジ前0920-0938赤石温泉・白樺荘
(解散)

ついに合宿最終日だ。天気も良く、夏道のように全く雪の見られない道を淡々と進む。大吊橋を渡り、林道を一時間でダムへ。さらに一時間林道を歩いてついに赤石温泉に到着。長い道のりであった。解散式をすまして、温泉へ。光岳のピークは踏めなかったが、各自実力を出し切ったという満足を感じた。(江川)

夏山合宿

後立山連峰・白馬岳～爺ヶ岳

・93, 7. 22～27

・CL 西原、SL 後藤

尾崎、上村、佐間、星野、満川(2年)

上野、岡崎、奥村、鈴木、灘吉(1年)

OB 博多氏(43期)、松下氏(44期)

顧問 佐藤先生、渡部先生、泉先生

<7.22> 新宿0700-1108白馬大池1114-1142榎池自然園1205-1614乗鞍岳-大池山荘(幕) 就2030

例年夜行を使う夏山合宿であるが、今年は都の指導で朝発となった。今回は現役が12名、そのうち女子が4名となり2年男子のザックは42～43kgに達した。2年女子でさえ30kgくらいになった。

電車内で昼飯を済ませ、柵池自然園で水をくんで出発。梅雨明け前だが、まぶしい日射しが照りつけ、青空が広がる。重い荷物で転ばぬよう、慎重に雪渓をわたる。ゆっくりペースではあったが、無事にテント場に着いた。

<23> 起0230-発0433-0641小蓮華岳0657-0856白馬岳(L) 0950-
-1122杓子岳直下-1143杓子岳1156-杓子岳直下1224-
-1351鑓ヶ岳1415-1510天狗山荘(幕) 就2030

今日も快晴だ。雪倉岳や小蓮華岳など360度の絶景を望みながら一步一步前進する。登るにつれて白馬岳は遠く高くなる感じだ。遠く彼方には、鹿島槍ヶ岳の峻峰も見える。しかし、一年生や女子はかなりつらそうだ。大声で励まし合って、ついに白馬岳に登頂した。杓子岳、鑓ヶ岳もとても大きく、天狗山荘到着は15時になってしまった。狭いテント場はすでに満員、設営場所の確保に一苦労した。

<24> 起0300-発0542- (先) 1001不帰Ⅰ峰1020-1204不帰Ⅱ峰1220-
(後) 1019不帰Ⅰ峰1036-1225不帰Ⅱ峰1241-
-1332唐松岳1340-1400唐松山荘(幕) 就2050
-1419唐松岳1430-1450唐松山荘

夜中、風雨がとても強く、不安定な所に設営したので、朝気が付くとテントは崩壊状態だった。しかし、天気はすっかり回復している。

天狗の大下りは、長く、急であった。我々は、先発と後発に分裂してしまい、そのまま別々に唐松岳をめざした。さすがに、「不帰」だ。厳しい岩稜の登り下りが続く。先発に遅れること50分、後発もようやく山頂を越えてテント場に到着した。

<25> 起0400-発0700-1050五竜山荘(幕) 就1930

今日の行程は短い。そのために気が緩んだのだろうか、撤収に時間がかかり出発が一時間も遅れた。また、下りきってから白岳への登り返しがかなりきつく感じた。それでも11時には到着し、午後は今合宿初めてのんびりと過ごすことができた。

<26> 起0200-発0343-0456五竜岳0534-1020キレット小屋(L) 1054-
-1412鹿島槍南峰1444-1607冷池山荘(幕) 就2145

今日こそ、最大の難関、八峰キレット～鹿島槍を踏破する。2時起床、撤収ありの3半発だ。ヘッドライトをつけ、闇の中を歩きだす。足元は濡れ、荷は重い。緊張は極度に達した。五竜頂上でやっと夜明け。行く手の鹿島槍が恐ろしい。

不安定なヤセた岩稜のアップダウンが6時間以上続いた。一步間違えば黒部川にまっさかさまだ。狭い足場、重いザック、急な道に思わず恐怖する。八峰キレットは包丁の上を歩いているようだった。鹿島槍頂上。皆の顔に安堵の表情が漂う。あとはもう、劔岳を右手に、緩やかな道を下るだけだ。

<27> 起0400-発0555-0753爺ヶ岳0830-0855種池山荘0910-1129扇沢
1136-1148大町温泉郷 (解散)

冷池山荘で水を買ひ、最終日の行動が始まった。午前中に下ってしまう我々が、水不足に悩む山小屋から水を買うのもどうかとの思いもあるが、もしもの事があつたら困る。種池山荘で北アルプスの峰々に別れを告げ、いよいよお帰りパワー炸裂だ。2Pで下り、大町温泉に直行した。解散式では思わず涙が出てしまった。天候に恵まれ、厳しい岩山を歩き通すことができた。撤収が遅いとか、ラジウス、コッヘルの扱いとか、反省点多かったが、素晴らしい夏山合宿だった。(尾崎)

春山合宿

南アルプス・早川尾根～仙丈ヶ岳

・94, 3. 26～31

・CL 西原、SL 後藤

尾崎、上村、星野(2年)

上野、鈴木、灘吉(1年)

<3.26> 新宿0002-0316小淵沢0544-0602穴山0610-0642御座石鉢泉
0700-1237燕頭山1256-1810幕営地

新宿駅7番ホーム。一人また一人と重装備をした若者が集まってきた。まだ僕たちの顔にも笑顔が見える。OBや女子部員に見送られる中‘002’は走り出した。送迎のマイクロバスを利用するため、小淵沢で上りを待つこと2時間。仮眠をとる者もいる。御座石からは急登が続く。いつものことだが合宿の初日はつらい。燕頭山を過ぎると雪もかなり深くなり、時間をくう。樹林帯は暗くなるもの早い。さっきまで見えていた目印も見えなくなり、とうとうルートを見失ってしまった。仕方なくそこで幕営。不安な幕開けとなった。

<27> 0825鳳凰小屋0835-1120地藏岳直下1200-1515高嶺1542-
-1712白鳳峠（幕）

明るくなると、目の前に目印があることに驚かされる。地藏岳までも急登が続くが、天候も幸いし、何とか乗り切れる。早川尾根にでると一気に視界が広がる。左に北岳、右には甲府盆地が広がっている。高嶺からは、正面にアサヨ峰が小さく見える。その向こうには甲斐駒も。高嶺の下りは要注意だ。アイゼンを利かして慎重に足を運ぶ。

<28> 起0430-発0637-0850広河原峠0914-1037早川尾根小屋-
-1410ミヨシ手前（幕）

仙丈アタックも日程的に厳しくなってきたが、まだ希望は捨てていない。行けるところまで進もう。朝一パワーなるものを発揮してぐんぐん進む。ピークが以外と手強い。この下りでは、去年ザイルが出た。しかし今年は、雪の状態がよく、間隔をとって慎重に下り難なきを得る。いつの間にかミヨシ手前まで到着。仙丈への望みをつないだ。

<29> 起0400-発0605-0856アサヨ峰0915-1131栗沢ノ頭1140-
-1314仙水峠（雪訓）1455-1545北沢峠（幕）

朝から雲行きが怪しい。天気図でも今日はかなり悪そうだ。ミヨシまでは本当に胸ラッセル。人数が多くて助かった。アサヨへの稜線は雪っぴが右側に発達している。悪天候のため、アサヨ、栗沢ノ頭からは何も見えず。本来なら、僕たちの目指す仙丈ヶ岳がどっしりと構えているはずなのだが。仙水峠へ下る間に雷も鳴ったが、頭上には青空が戻ってきた。

<30> 起0440-発0550-0903小仙丈ヶ岳0915-1024仙丈ヶ岳1127-
-1213小仙丈ヶ岳1227-1359幕営地

昨日、やっと予定のテン場に辿り着き安心したのか1時間の寝坊。しかし、今日はみんな輝いている。北沢峠に着くと、期待通りに仙丈へと続くトレースが残っていた。しかも快晴無風の好条件。なんて僕たちは運がいいのだろうか！前日までの大荷物から解放され、さくさく進む。しかし樹林帯を出ると、北沢峠での無風が嘘のように強風に見舞われる。小仙丈まで行けばいくらか風も弱まり、仙丈ヶ岳、北岳はもちろん、富士山までも目にすることができた。ここからは少しやせた尾根が続く。一瞬たりとも気が抜けない。仙丈カールを横目で見ながら登りつめると、立派な標識『南アルプス仙丈ヶ岳3032.7m』が僕たちを迎えてくれた。そして、そこには、僕たちがかつて見たことのないような世界が広がっていた。雲一つない青空のもと、南アルプスをはじめ中央アルプス、北アルプスまで、360°の大パノラマ。しばらく見とれてしまい、言葉が出なかった。頂上でランチをとりながら、なんて贅沢なことをしているんだ、と思わずにはいられなかった。写真もたくさん撮った。この感動をほかの人にも伝えたくて。

<31> 起0500-発0701-0817丹溪山荘0833-0925白岩の堰堤0953-
-1042戸台大橋（解散）

最終日。書くまでもないが、みんな、温泉や食べ物のことなど思いめぐらしながら、お帰りパワーを発揮する。戸台までのこのコースタイムは誇れる

ものだと思う。解散後はタクシーで上諏訪へ出て温泉へ直行。各自、この1週間を振り返りながら帰途についた。 (西原)

夏山合宿

北アルプス・薬師岳～槍ヶ岳

- 94, 7. 24～29
- CL 灘吉、SL 鈴木
尾崎 (3年)
上野、岡崎、奥村 (2年)
楠井、名取、細田 (1年)
OB 博多氏 (43期)、松下氏 (44期)
顧問 佐藤先生、浅井先生、花田先生

<7. 23~24> 上野2358-0609富山0625-0820折立0855-1620薬師峠 (幕)

折立で小屋にしおりを提出し、水をくんで出発。荷物が重く、ゆっくりしたペースで登っていく。下界は暑く、汗がしたたり落ちる。3Pで急登を登りきると、だいぶ涼しくなる。ここからは緩い坂道になっている。しばらくして樹林帯をぬける。薬師岳が見えるはずだが、ガスっている。ここからが正念場であり、きつい。木道が始まると、小屋は近い。

<25> 起0400-発0510-0719薬師岳(L) 0830-0959幕营地

今日はむちゃくちゃ楽である。薬師岳に登りたかったことと、今日黒部五郎に登るときつ過ぎるため、あえてアタックにした。明日への期待が高まる。

<26> 起0200-発0346-0645北ノ俣岳0700-1113黒部五郎岳1222-
-1443黒部五郎小屋 (幕)

他のテントがまだ寝ている中、静かに出発。皆元気で足どりも軽い。北ノ

俣岳を越え、赤石岳を巻くと中俣乗越に着く。黒部五郎岳が目の前にそびえているが、ガスっていてあまり上まで見えない。急登を登りきると分岐にたどり着く。空身で山頂を往復。ちょっと休んで下る。カールへの下りは急で怖い。その後は単調な下りで長い。雨がパラつくが、小屋に着くころには止んでしまった。

<27> 起0300-発0510-0758三俣蓮華岳0815-0957双六岳1020-1144
双六小屋(幕)

ダンロップNEWの人々は、昨日の石油めしでどうなるかと思ったが、大丈夫そう。2Pで急登を登りきる。双六岳までは少々足場の悪い所や雪渓があり、以外と時間がかかる。小屋への最後の下りが少し急である。

<28> 起0200-発0319-0755槍ヶ岳1014-1403幕営地

もう1つのメインテーマである槍ヶ岳を目指す。今合宿の最高峰でもある。真っ暗なので縦沢岳からの下りが怖い。その後は尾根づたいに快適に歩く。鎖場が何ヶ所かあるが、アタックのため問題ない。槍の肩はさすがに人が多く、にぎやかである。山頂からは360度見渡せる大パノラマが広がる。

<29> 起0300-発0452-0600弓折岳0641-0716鏡平0735-1200新穂高
温泉 (解散)

最終日なのに尾根に出るまで登る。しかし後は下るだけで、お帰りパワー炸裂。ザックのベルトが切れるというハプニングもあったが、全員無事下山した。

春山合宿

北八ヶ岳・硫黄岳～蓼科山

- CL 灘吉、SL 鈴木(前)
- 上野(後SL) (2年)
- 栗本、細田 (1年)
- OB 博多氏 (43期)、土田氏 (46期) 〈前半〉
- 佐々木氏 (46期)、木村氏 (46期) 〈後半〉

この合宿はOBが途中で入れ替わり、SLも持病の病状悪化のため途中リタイアとなった。しかし、これはハツならではの、交通の便の良さのおかげでスムーズに行われ、そういう意味で幸運だった。軽率な目的地変更や部員の体調管理に問題が残った。

<3. 25~26> 新宿2350-0313茅野0327-0358美濃戸口0425-0613赤岳山荘
(B) 0649-1045赤岳鉱泉 (幕)

赤石鉱泉までは緩い傾斜の道がたんと続く。凍った木の橋を渡るのが怖い以外は特に問題なく、距離をかせぐ。午前中に着き、午後は仮眠をとる。

<27> 起0400-発0630-1010硫黄岳1030-1142夏沢峠 (幕)

最初1Pはなんともなかったが、だんだん急斜面になり、アイゼンをつける。ゆっくり、かつ慎重に登り山頂へ。風が強く、寒いのですぐ下り始める。夏沢峠に下りるまでは雪が多く、大変だった。小屋も横にテントを張り、有志で明日のルート開拓に行く。

<28> 起0400-発0700-1047東天狗1110-1247中山峠(L) 1310-
-1650青苔荘 (幕)

昨日のルート開拓のおかげで、1Pめは快調。やせ尾根を慎重に渡り、東天狗に着く。西天狗を左に見ながら下りていく。中山をはっきりしないうちに通し、高見石小屋へ。かすかなトレースをたどり、白駒池に着く。着いたころには、暗くなり始めていた。SLは翌日OBと一緒に下山することとなる。

<29> 起0400-発0623-0850茶臼山-1000縞枯山-1023雨池峠1035-
-1325双子池(幕)

麦草峠で下山組と別れ、出発。クロカンが盛んな八ツなので、途中まで雪が固められている。大岳の下りに不安があり、林道を通って双子池へ向かう。しかし膝までのラッセルはつらかった。

<30> 起0400-発0621-0813双子岳0830-1510蓼科山荘(幕)

双子岳への登りで迷い、はまり、大変だった。さすがに蓼科山の登りも辛かった。雪が腐っていて足取りが重い。偵察で来ていないので慎重に赤布を探し、見つけるごとに安心しながら進む。急登を登りきっても、だだっ広い林が続き、迷いそうになる。やっと見つけた蓼科山荘は掘り起こしてみると、鍵がしてあった。ブロックを作り、テン場とした。

<31> 起0400-発0625-0744蓼科山0825-1314親湯 (解散)

かなりの傾斜であるが、アイゼンをきかせてどんどん登っていく。山頂からは360度見渡せ、最終日にふさわしいものだった。今合宿一番の眺めであった。重い雪だが、お帰りパワーには関係なく快調。アスファルトの道にでて、汗だくになり、親湯に到着。3・3・7拍子で94年度の山行を閉じた。
(灘吉)

編集後記

彷徨23からまる10年。やっと彷徨24が完成した。だが、完成までに約1年かかった。急いで書いてもらった先輩方にはお詫びしたい。しかし、実際は前期試験終了と同時にワープロ打ちを始め1週間ほどで終わった。彷徨22にも書いてあったが、やる気になると早いものである。

今回の一番の問題は、山行報告書がそろっていなかったことであつた。計画書と同様に整理、保管をしっかりとしてほしい。

最後になったが、書類を提出してくれた先輩、特にワープロ打ちをしてくれた先輩に感謝したい。

彷徨2⁴~~3~~ 1996年3月13日発行

編集 灘吉 聡 (48期)

発行 都立西高ワンダーフォーゲル部

印刷 都立西高生徒会室